

第3回稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日 時】 令和2年2月20日（木）午後1時56分～午後4時3分

【場 所】 稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】 稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委員	栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
	山田 洋	祖父江町商工会事務局長
	南谷一夫	平和町商工会事務局長
	壁谷知宏	名古屋鉄道株式会社グループ事業推進部インバウンド担当課長
	松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
	林 和伸	善光寺東海別院副住職
	伊藤哲浩	愛知県観光コンベンション局観光振興課長
	浪上永子	公募市民

【事務局】 岩間福幸 稲沢市経済環境部長
足立和繁 稲沢市経済環境部商工観光課長
横井利幸 稲沢市経済環境部商工観光課主幹
大屋 将 稲沢市経済環境部商工観光課主査

【傍聴者】 1名

【会議次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 新委員の紹介
- 3 協議事項
 - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
 - (2) 次年度の取組方針について
 - (3) その他
- 4 その他

【会議の概要】

[事務局]

定刻より少し前ですが皆様お揃いですので、ただ今から稲沢市観光基本計画推進委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は、この会議の進行を務めます稲沢市経済環境部商工観光課長の足立和繁です。よろしくお願いいたします。

はじめに、会議の開催に当たり大澤委員長からごあいさつを頂戴したいと思います。

1 委員長あいさつ

[委員長]

皆さんこんにちは。本日も稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況を確認しながら、皆さんと意見交換をしていきたいと思えます。この会議に出席することを本当に楽しみにしていました。その理由ですが、現在愛知県内で稲沢市に対する注目が大変高まっており、言葉は悪いですが「稲沢市が頑張っているのであれば、我々もやれるのではないか」という地域が増えてきています。そうした点で、稲沢市は県内にとっても良い効果を発信している震源地になっています。この後事務局から現在の状況について説明があると思えますが、関係団体間の連携と市民の方々の積極的な参加が稲沢市の最大の特徴であると思えます。市民の力が結集した時の可能性がいろいろと見えてきており、今後更に発展していきそうな予感もあるため、大きな期待と「ワクワク感」を持てる会議になるのではないかと感じています。皆さんから積極的なご意見とともに、今後に向けた希望や期待もいろいろと伺えればと思えますので、よろしくお願いいたします。

2 新委員の紹介

[事務局]

次に、新しく委員に就任されました2名の方をご紹介します。

一人目は、平和町商工会事務局長の南谷一夫 委員です。続いて二人目は、国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長の杉山佳幸 委員です。杉山委員におかれては、本日公務の都合により欠席されていますので、よろしくお願いいたします。

お二方につきましては、前任委員の退職に伴い、各所属団体から新たに選任いただき、昨年6月1日付けで委員を委嘱させていただいたものです。任期につきましては、本委員会の設置要綱の規定に基づき前任委員の任期を引き継ぎ、令和2年6月28日までとなります。

それでは、新たに就任された南谷委員から自己紹介をお願いできればと存じます。

<南谷委員から自己紹介>

[事務局]

次に2点、ご報告とお願いをさせていただきます。

はじめに本日の会議につきまして、先ほどご紹介した杉山委員のほか、河村宏一 委員、後藤洋哉 委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

2点目としまして、会場が広くなっておりますので、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますようお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり、「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況について」「次年度の取組方針について」「その他」の3点となります。委員の皆様方から多様な意見をいただき、その内容を今後の計画の推進に反映していきたいと考えます。限られた時間ですが、ご審議賜りますようお願いいたします。

3 協議事項

(1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について

(2) 次年度の取組方針について

[委員長]

これより議事に入りたいと思います。

最初に協議事項(1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について及び協議事項(2) 次年度の取組方針について、関連しますので事務局から一括して説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)の進捗状況(2019年度年次報告書)」及び資料2「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)アクションプラン進捗状況(2019年度実績)」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終了しました。ご意見、ご質問等がある委員は挙手の上、ご発言をお願いします。

取組が多岐にわたっており、先ほども事務局に「よくぞここまで書くことができましたね」と伝えたところです。県の計画推進委員会でもここまで精密な資料は出てきません。書くことがこれだけあり、その情報を市がきちんと把握していることがすごいと思いました。それだけにどの部分から聞けば良いのか難しいと思いますが、ご意見等があればぜひお願いいたします。

[委員①]

稲沢市観光協会のホームページをリニューアルしたと伺いましたが、どんな効果があったのか、また今後どのように活用していきたいか、考えがあればお聞かせください。

[事務局]

リニューアルによって多種多様な観光情報が掲載できるようになったこと、そして見やすさが向上したことが大きな効果だと感じています。その一方で、具体的なアクセス数の集計や分析に至っていないのが現状です。今後はアクセス解析により利用者のニーズを的確に捉えつつ、SNSの

活用を含めた積極的な情報発信に努めていきたいと考えています。

[委員①]

最近では愛知県の公式観光ガイド「Aichi Now」でも、WEBサイト版よりInstagram等のSNS版のほうが成績優秀のようです。Instagramの写真を見て「この場所に行きたい」と思う女子が多いため、SNSは非常に効果が高いと言われています。ぜひ参考にいただければと思います。

[委員長]

ホームページやSNSの閲覧件数が分かれば、効果がより適切に計測できると思います。「Aichi Now」も閲覧数を計測した結果、「非常に効果が高い」ということが分かったので、観光協会でもぜひ取り組んでいただきたいと思います。

[委員②]

2月6日のはだか祭が無事に開催できたことについて、まずもってお礼を申し上げます。

質問は2点あります。始めに「いなざわ観光まちづくりラボ」のメンバーについて、現在55名との説明がありましたが、年齢層はどうなっているのでしょうか。2点目として、昨年5月8日に開催されたリーダー会議には何名のメンバーが出席されたのでしょうか。

[事務局]

ラボには20代から80代までの幅広い年代の方々が参加されています。その中で平均を取ると、40代もしくは50代になるかと思います。また、リーダー会議には、各プロジェクトのリーダーないし主要メンバーである10数名の方々にご出席いただきました。

[委員長]

私もラボの会議に何度か出席していますが、他の地域と比べて「参加者が若い」という印象を持っています。お話のとおり年齢構成も非常に多様で、特に働き盛りの方々がしっかりと参加されているため、今後の活動への期待が持てると感じています。

[副委員長]

私も資料2の中身を見て圧倒されました。その中で、実施主体の欄のほとんどに「市（商工観光課）」と書かれています。例えば11ページのアクションプラン2-⑧「“農”を活用した体験型観光メニューの創出」を見ますと、2019年度の実績・進捗状況として、祖父江のホテルを守る会と連携して自然観察会を計4回実施されています。また、稲沢フルーツ園で農業民泊体験をスタートさせ、短大と連携してホームページも開設されています。これらの事業を行うだけでも、基礎資料の収集、会議の開催や関係者との調整など、半年くらい掛かりきりになるのではないかと思います。これだけ多くの事業を実施されたこと、観光による地域づくり、観光の範囲を超えた地域コミュニティづくりを、町村ではなく市のレベルでここまで実施されたことにとっても驚きました。これらが可能となったのも、職員の方々の頑張り、そして一市二町の合併以降も存続し

ている商工会議所と商工会が受け皿として上手く機能したこと、更に農業関係者を始め意欲的な人材が豊富で、先ほど委員長もおっしゃられたように、若い年代の方々が活躍されているからではないかと思います。非常に濃密で調整に時間を要することを数多く実施されているのにもかかわらず、ここまでの取組成果が出ているのはどうしてでしょうか。

[事務局]

始めに、「NPO 法人祖父江のホタルを守る会」の取組についてご説明します。この団体は旧祖父江町に多く生息していたヘイケボタルを守るために出来た NPO 法人で、先月名古屋で行われた COP10「あいち・なごや生物多様性 EXPO」において、「国連の生物多様性の 10 年日本委員会」の認定連携団体として表彰を受けたところです。お話のありました自然観察会の担当は市の環境保全課で、資料を見ますといかにも職員がやっているように見えますが、実際は祖父江のホタルを守る会に事業委託をしています。当然委託者である市も関わっていますが、多くは祖父江のホタルを守る会に運営していただいています。

農業民泊体験についても、ラボメンバーである農園主の方と短大が中心となってプランを作られました。市の関わり方としては、事業の進め方の相談に乗ったり、体験発表会に参加して意見交換をしたりといった具合です。

お褒めの言葉をいただいたにもかかわらず大変恐縮ですが、市が個々の事業に対し全ての時間を費やした訳ではありませんし、最初から最後まで関与した訳ではないのが事実です。市が様々な形で関わり、様々な団体と連携することで、アクションプランの一つ一つが少しずつ進捗している状況です。

[副委員長]

ありがとうございました。「観光を通じた地域づくり」というものが大変感じられる報告をいただいたと思います。

[委員③]

資料を拝見し、稲沢市には本当にたくさんの資源があると感じました。これだけ多くの資源を発掘し、販売できる素材が出来上がってきた訳ですので、次のステップとして、これらを外に出し、消費者から率直なアドバイスをもらう展開へと進んでいくことが必要だと思います。来年度の取組の中に「観光展や商談会への積極的な参加」がありましたが、その時には「国府宮はだか祭」や「祖父江のイチョウ黄葉」といった既に認知されている素材だけでなく、ラボの皆さんが手掛けているプロジェクト等も含めて「稲沢市にはこんなネタがある」ということを、旅行商品づくりのプロであり、販売のプロである旅行会社の方々に紹介し、商品化に向けた相談を行えば、いろいろと有効なアドバイスがもらえると思います。「アドバイスを持ち帰り、整理し直し、素材を更に磨き上げていく」といったサイクルを回していく時期に稲沢市は来ているのではないかと思います。

次に申し上げたいのは、情報発信についてです。先ほど事務局から「SNS を活用して積極的に情報発信していく」という話がありましたが、ぜひ貪欲に取り組んでいただきたいと思います。そ

の一方で、今私の手元に「旬感観光あいち」という愛知県観光協会が無料発行している冊子の冬号がありますが、これを見ますと、「国府宮はだか祭」が載っているだけで非常に残念な状態です。愛知県観光協会の担当者に記事の採用方法を聞いたところ、「申し込んでいただければ、協議して載せます」と言っていましたので、こうしたアナログ型の発信も合わせて活用していただきたいと思います。PR できるチャンスはいくらでもありますので、ラボの皆さんの活動成果も含めて、ぜひ外部にどんどん発信していただきたいと思います。

[委員長]

「観光協会の機能強化」が来年度に向けて一つ大きく変わる点です。稲沢市観光協会では、情報発信を含めた誘客に加え、実際の販売へと結び付ける活動を展開していくため、専門職員を新たに採用し対応していく考えです。ただ今委員がおっしゃられた点については、来年度は心配無用と期待しています。

話は変わり、「祖父江のイチョウ」に火が点いていることが最近の稲沢市にとって最大の話ですが、この点についてコメントをいただければと思います。

[委員④]

ご承知のとおり、祖父江町商工会では「そぶえイチョウ黄葉まつり」がメイン事業となっています。現時点でそれ程大きな問題点はありませんが、将来の話になりますと、様々な問題点が考えられます。それらをどのように解決していくかが最大の課題となっています。

商工会は組織力が弱いため、費用面の問題がまず懸念されます。祭りの規模が大きくなればなるほど、当然費用は掛かります。今のところ祭り単体の収支は若干の赤字となっていますが、国や県の補助金を活用し、様々な事業と組み合わせて実施することで、全体として何とか黒字に持っていつています。しかし今後となると、特に警備面で更なる費用が掛かってきますし、シャトルバスの運行についても様々な意見がありますので、それらをどうクリアしていくかが問題となります。また、祭り会場での無料 Wi-Fi スポット設置を始め、今年度から様々な取組を行っていますが、出来れば市を含めた全体組織の中で取り組んでいければと思います。SNS を活用した情報発信についても、今回新たに^{ツイッター}twitterを導入した結果、非常に反響が大きかったので、更に効果的に活用していきたいと思っています。

今後増えてくる課題に対し、市と連携を深めながら取り組んでいきたいと考えます。

[委員長]

稲沢市も愛知県も協力していただけるとと思いますので、ぜひ今後も積極的な取組を推進していただくようお願いします。

[事務局]

各祭りでシャトルバスの運行や警備費用の工面に苦労されていることは認識しています。そうした中で「そぶえイチョウ黄葉まつり」においては年々事業を拡大され、国や県の補助金を上手く活用しながら、周辺の施設や店舗を巡っていただく策まで講じていただいております、本当にあり

がたい限りです。なお、先ほど話に出ました Wi-Fi スポットの整備についてですが、市では来年度、祭り会場での臨時的な無料 Wi-Fi スポットの設置予算を計上しております。その中には「そぶえイチョウ黄葉まつり」の会場も含まれています。市としましても、更なる観光誘客に向けて連携を深めていきたいと考えます。

[委員⑤]

祖父江のように全国的に有名なものはありませんが、4月の「へいわさくらまつり」と信長公ゆかりの「勝幡城跡」が平和地区を代表する観光資源だと思います。桜ネックレスについては、整備してから随分時間が経ち、歩道部分のアスファルト舗装やレンガ敷きの箇所では桜の根の盛り上がりが目立つようになっています。ウォーキングを楽しまれる方で、特に高齢者の方が躓かれるのを目にしますので、行政で再整備等のフォローアップをしていただくと非常に助かります。また、勝幡城跡については、かつて愛西市の「NPO 法人信長生誕を育む会」が現地に案内看板を設置した経緯がありますが、経年劣化してきているように感じます。来年度市で新たに案内看板等を設置するという話をお聞きましたので、期待しています。

[事務局]

桜ネックレスの遊歩道改修については、地元からも要望をいただいているようです。私どもの建設部が来年度予算に計上し、順次対応を進めていくようですので、よろしくお願ひします。

次に勝幡城跡ですが、現地を訪れますと、城跡を示す碑が「勝幡城址石碑」と「織田弾正忠平朝臣信定古城蹟」の2つ存在しています。先ほど委員がおっしゃられた「信長生誕を育む会」が設置した看板は、「勝幡城址石碑」が建つ場所に設置されているものです。この看板が老朽化しているとのことですが、この場所の管理は市でも県でもなく、地主が実質管理している状況にあります。そのため、当地の看板を整備改修する考えは現状市では持ち合わせていません。しかし、当地を目的に訪れるお客様に対しては、市だの民間だのとは言っていられませんが、何らかの形で解決していく必要があると感じています。なお、来年度市が行うのは、もう一方の碑の方であり、市が指定文化財として管理している「織田弾正忠平朝臣信定古城蹟」を案内する看板と路面標示案内シートを設置するものです。

なお、「へいわさくらまつり」と「勝幡城跡」の関係で言えば、今年度開催された祭りで地元の歴史研究グループ「ヒストリアへいわ」が「“耳順” ウォーキング in さくらまつり」と題して、まつり会場と勝幡城跡を繋ぐウォーキングイベントを行いました。

[委員長]

皆で話し合っただけならば、決して後ろ向きの対応にはならないと思いますので、ぜひお願ひします。

[委員⑥]

資料を見てすごく圧倒されています。若い人たちを中心に様々な取組が行われていて、稲沢市がすごく進歩しているという印象を持ちました。しかし、市民の4分の1以上、もっと多くいる

かもしれない高齢者の人たちはこうした情報を知りません。マイナスなことを言うのも申し訳無いのですが、市民の中でも、それぞれの祭りは知っていて、実際に訪れたりするものの、ラボの活動や市が積極的に観光PRを行っていることを「知らない」「興味が無い」という方が多いです。いかにそうした方々を巻き込み、一緒に取り組んでいく方向に持っていかかが課題だと思います。実は私も観光協会のボランティアをやっており、去年1年間で様々な活動に参加してきました。その中で感じたことは、それぞれのイベントでお客さんは多いものの、「一緒に活動しませんか」と呼び掛けてみると、反応はイマイチで盛り上がりには欠けることです。また、観光協会自体の存在もあまり知られていません。ラボの活動も一部の関係者は知っているかもしれませんが、一般的には知られていません。元気な高齢者の方々にも観光まちづくりに参加していただきたいと思いますので、「いかに巻き込んでいくか」、もう少しPR方法を考えていただければと思います。

[委員長]

とても重要なお指摘をいただいたと思います。先ほど他の委員からも「的確な情報発信」について発言がありましたが、「市内に向けてどのような情報を発信していくか」がとても重要です。観光まちづくりの取組や稲沢市の持つ魅力を市民にも広く知ってもらうためには、飛び道具も大事ですが、アナログな媒体である広報誌や回覧板等を通じて市内にしっかりと発信していくことが何より必要だと思います。今年度ラボメンバーで市内の観光資源を巡る視察ツアーを企画したのですが、これを市民向けに実施してみるのも有効だと思いました。稲沢市に限らず、「市民が自分たちの市の魅力を知らない」というケースはよくあります。「市民が市内を巡るツアーに5,000円も払うか」と言えば微妙ですが、料金設定はともかく、市内でも十分集客は可能だと思いますし、そうした取組が後々効果として表れてくる気がします。実際にツアーで回ったラボメンバーからも「市内にこんな魅力があったとは知らなかった」という声もかなり上がっていると思いますので、一般市民や観光ボランティアの方々を対象としたツアーは非常に効果的だと思います。

皆さんから発言があるとおり、稲沢市の中で多様な取組が行われていますが、「稲沢市観光まちづくりビジョン」の基本的な考えは、『主体的に観光まちづくりに取り組んでくれるプレイヤーをとにかく増やすこと』と、それぞれの活動がバラバラにならないように『情報を繋ぎ、ヒトを繋いでいくこと』が大きな戦略の柱です。市役所だけ、観光協会だけ、商工会だけでは出来ることがあまりにも限られてしまいますので、プレイヤーを増やしつつ、同じ方向を向いて頑張れるように『繋いでいく』ことが大きなテーマになります。稲沢市の取組はとても先進的で他ではやっていない方法なので、そうした意味で今委員が言われたような指摘はすごく大事な視点だと考えます。様々な形でトライアルしながら、市民の意識醸成に積極的に取り組んでいただきたいと思います。稲沢市のようなやり方を行っている自治体は非常に珍しいだけに、市役所にも観光協会にももっとチャレンジしてほしいと思います。

[事務局]

「高齢者の方はSNSが使えない」とのご意見もありますので、世代やニーズに合った様々な情報発信方法を活用していきたいと思います。

また、バスツアーの話が少し出ましたが、昨年「なごやレストランバス」の企画で稲沢市内の

農園を巡るツアーが実施されました。愛知、岐阜でいくつか実施されたうち、稲沢市を巡るツアーでは祖父江の稲沢フルーツ園と平和の木村農園に行かれたようで、好評につき追加の実施もされたと聞いています。市外から訪れた方々がこうした取組を SNS や口コミで広げていただくことで、市内にも認知されていくケースもあろうかと思えます。

[委員⑦]

貴重なお話を多数お聞かせいただき、ありがとうございます。少し私どもの PR をさせていただければと思います。来年はいよいよ数え年で 7 年に一度の御開帳となります。過去の実績を申し上げますと、平成 15 年には 56 日間の開催で 21 万人の方にお越しいただきました。その次の平成 21 年には 23 万人、この時はお寺の創立 100 周年記念の御開帳ということで 100 日間の開催でした。そして前回の平成 27 年は日数が元に戻り、56 日間の開催で 15 万人でした。今回、令和 3 年の御開帳に向けてですが、過去 3 回の経験から感じていることは、バス 1 台当たりの団体送客数が低迷してきていることです。平成 15 年の御開帳の時は大型バス 1 台当たりの想定人数が 40 人から 45 人程度でした。それが前回の平成 27 年では、バスの入込台数自体は変わっていないものの、1 台当たりの送客人数が減少した結果、来訪者全体で 15 万人という結果になってしまいました。そうした中であって、「そぶえイチョウ黄葉まつり」の観光バス 50 台で 1,573 人という団体送客数は、1 台当たり「31.46 人」となるため、非常に良い数字だと思います。やはりイベント性のあるものは効果が高いと感じた次第です。私どもの御開帳は、信州善光寺と同期間に御開帳するもので、6 つの善光寺が手を取り合って行います。年度が変わって 4 月になりましたら、本格的に PR 活動を展開していきたいと思えますので、ご指導、ご鞭撻をいただきますようよろしくお願いいたします。

[委員長]

「バス 1 台当たりの人数を増やすのか」、それとも「バスを使わずに来る人数を増やすのか」は、これから話し合われることになると思います。7 年に一度の御開帳に向けていろいろな挑戦を試みる良い機会だと思いますので、ぜひ協働しながら進めていただきたいと思います。

[委員⑧]

私は本職がインバウンドということで、外国人誘致に日々携わっています。稲沢市の計画に直接関らない部分も多いかもしれませんが、最近頻繁に報道されている新型コロナウイルスの影響が観光面においてインバウンドだけでなく、国内各地でも出てきているのを日々感じていますので、ぜひこの場を借りて情報共有させていただければと思います。

一般的に 1 月 27 日に中国武漢からの渡航について、団体ツアーや航空券とホテルのセット販売が禁止となり、その日を境に中国人の方々がめっきり来なくなりました。その結果、電車だけでなく、名鉄グループ全体で非常に大きな影響が出ています。具体的などころで言えば、中部国際空港駅について、今年度は LCC ターミナルや大規模国際展示場「Aichi Sky Expo」が出来たりして利用客が増え続けていたのですが、この日を境に減り始めています。また、各ホテルについて、当グループのホテルは中国人に特化したものではありませんが、それでもやはり相当数のキャン

セルが発生しています。更に百貨店の免税販売も相当減っており、旅行業を行っている名鉄観光では、中国からのインバウンド、日本人が海外に行くアウトバウンド、また日本人が国内を周遊する国内旅行の全てにおいてキャンセルや減員が発生している状況にあります。

これらの影響に関して、一般的に中国人だけが来ていないように思われますが、実は既に台湾、タイ、香港、韓国も含めた全てのお客様が日本に来なくなっていることは重々把握しておかなければいけないと思います。実際に今週タイで日本への渡航の注意喚起がされて、「新しい団体ツアーの販売を見送るように」との情報が出たり、先週末に台湾で死者が出たりしています。台湾については、実は日本以上に相当対策が練られており、2月中に大学を含めた全ての学校が休校となり、民間企業では「なるべく接客を控えるように」といった、人と接しないような対応が取られています。そのため、現地で「日本の対策は甘い」「危ないから日本に行かないほうが良い」との風潮が出ていることは、私どもの台湾事務所からの報告でも上がっています。

新型コロナウイルスの影響がどこまで続くのかは、非常に読みづらくて、このまま行くと「東京オリンピック・パラリンピックの時期まで行ってしまうのではないか」との懸念もされます。既にこの地域にも相当なインパクトが出ていることはお伝えしておきたいですし、併せて国内の需要についても、先ほど他の委員からお話があった「バスサイズの小型化」が現実になっており、具体的なところで言えば、我々の沖縄泊のバスツアーが全面中止になったり、沖縄で新型コロナウイルスの感染者が見つかったことで何名かキャンセルされる方がみえて、大型バスが中型バス、小型バスになってしまったケースが現実には発生しています。稲沢市の計画が県内から来る観光客のみを対象としているのであれば、それ程のインパクトは無いのかもしれませんが、東京や大阪を含めた県外から来る観光客をターゲットとしているのであれば、この先もまだまだ相当な影響が出てくると思われまます。先ほどご紹介いただいた4月の名鉄ハイキングも、数日以内に名古屋ウィメンズマラソンの一般参加が不可になるのではないかという話もある中で、「実施すべきかどうか」という議論が社内で起こり始めていますので、慎重なジャッジをしなければいけないと思っています。2020年度に向けてこうした事態が現実として起こってきていることは、我々のように観光を推進する立場の人間にとっては、非常に厳しい立ち上がりだと感じています。

最後にもう一点、今年の7月、8月に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。一般的には海外の方が東京に来るので、そのまま名古屋や愛知県にも寄ってもらえるよう誘客に努めるのですが、東京の旅行会社にヒアリングすると、オリンピック・パラリンピックの関係で都内が非常に混み合い、その結果、ホテルや航空券の料金が高くなったり、新幹線のチケットが取れなくなるケースが発生するため、「人がほとんど移動しない可能性が高い」と言われます。このことから、今年の7月から9月は愛知県の観光業界にとって非常に厳しい状況になることが予想されるため、4月から6月の間にいかに稼ぐかが重要になるのですが、このタイミングで新型コロナウイルスの影響が出始めており、我々の中でも有効な手立てが見つからない状況です。様々な情報を聞く限り、このような厳しい状況にあることを皆様にも共有させていただきます。

[委員長]

今後どれくらいの影響が出るのか、非常に心配な話です。

[委員⑨]

私の大学でも、新型コロナウイルスの影響で卒業式と卒業パーティーが中止になってしまいました。こうしたケースもあり、ホテルでは宿泊客だけでなく、宴会事業にも影響が出ていると思われる。

既に出た話の繰り返しになりますが、資料2にあるとおり活動が多岐にわたっており、すごく前向きな印象を持ちました。その一方で、あくまで個人的な感想になりますが、皆がそれぞれ頑張っているものの、個々が孤立しているような感じを受けました。そのため、これから先は「横連携」を意図的に仕掛けていく必要があると思います。例えば「そぶえイチョウ黄葉まつり」について、多くの人がありますが、盛り上がる場所が限られており、その周辺に対してプラスの波及効果が期待できない状況になっているのではないかと思います。今回、祖父江町商工会から委託を受けて愛知県内で観光に関するインターネット調査を行ったのですが、その中で「日帰りの行楽の際に複数の観光地に行くか」という設問に対し、3分の2の回答者が「行く」と答えました。この結果から「メインの観光地を訪れた帰りにどこかへ寄っていく」という形の観光パターンがかなり定着しているとすれば、「ついでに寄れる」観光スポットとして、稲沢市内の観光資源を利用してもらう流れを作っていくことが必要だと思います。個々のイベントやスポットの情報発信ももちろん大事ですが、「〇〇に行ったついでに△△にも寄ってみよう」といった横展開をどのように作っていくかも併せて考えていく必要があると感じています。

[委員③]

日本観光振興協会では、「産業観光」について重点的に取り組んでいます。産業観光と聞くと、どうしても工場見学や産業遺産の見学と捉えがちですが、例えば「豆腐づくり」のように、身の回りにも産業観光の材料はたくさん転がっています。そして、我々がもう一つ重点を置いているのが「人材育成」です。人材育成についてよく考えてみると、子供の頃から「本当の観光とは何か」「観光立国とは何か」を教育していくことが必要だと感じます。このことから「子供たちへの観光教育と産業観光を結び付ける手段は無いか」と考えてみた場合、「修学旅行」が有効ではないかと思いました。産業観光をメインとした修学旅行や教育旅行を何とか軌道に乗せられないかと、当協会では取組を始めたところです。初めて行う取り組みですので、今後どうなるかは分かりませんが、もし上手く進むようであれば、稲沢市でもぜひ考えていただきたいと思います。

[事務局]

貴重なご意見をありがとうございます。資料1の2ページをご覧くださいと、上の表中に「明治なるほどファクトリー愛知」が記載されています。この施設は市内の平和地区ある株式会社明治のヨーグルト工場に併設された体験型見学施設で、「明治！なるほどケンキュウ会」というイベントも定期的に開催されています。本市が愛知県企業庁にお願いし造成していただいた場所に誘致した工場施設ということもあり、市内の小学生や保育園は年2回必ず訪れています。工場見学だけでなく、自分で牛乳等を使ってモノづくり体験ができますし、乳製品やチョコレート製品の展示もありますので、産業観光や教育旅行での活用も十分可能だと考えています。

[委員長]

産業観光について、稲沢市にはまだまだ多くの資源が潜在しているので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

皆さんから一通りご意見をいただきましたので、以上で終了し、委員の皆様にお諮りします。

協議事項1「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況」及び協議事項2「次年度の取組方針」については、本日委員の皆様からいただいた意見等を今後の計画の取組に反映し、成果指標の達成に繋げていくということによろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、事務局は本委員会の意見等を踏まえ、観光まちづくりビジョンの取組を更に推進していただくようお願いします。

『一緒に何かに取り組む場をいかに増やしていくか』が今後のテーマになると思います。市内で「どうやって情報を繋ぐのか」「どのように人と人を繋ぐのか」、そのための一つの手法が『協働』です。この点について、「実践的に取り組んでいただきたい」という意見を多くいただきましたので、ぜひともよろしく願いいたします。

(3) その他

[委員長]

続いて、協議事項3「その他」に移ります。

先ほどの協議内容に関わらず、ご意見やご質問があれば、ご発言ください。また、この機会に情報共有しておきたいことがあれば、よろしく願いいたします。

<意見、質問等無し>

[委員長]

特に無いようですので、以上で本日の議事を終了したいと思います。ご審議いただき、また活発なご意見をいただき、ありがとうございました。

3 その他

[事務局]

ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえまして、「稲沢市観光まちづくりビジョン」の取組を推進していきたいと思います。

それでは最後に、事務局から3点事務連絡をさせていただきます。

はじめに、委員の任期についてです。皆様に現在お願いしております本委員会委員の任期は、令和2年6月28日までとなります。現段階で次回会議の開催予定は、1年後となります令和3年

2月頃を予定しておりますので、皆様に現任期中にご出席いただく会議は本日が最後となります。
「稲沢市観光まちづくりビジョン」のスタート以来今日まで、皆様から貴重なご助言、ご提言をいただきながら、観光まちづくりの推進に努めてきましたが、ご承知のとおり取組は未だ緒に就いたばかりです。事務局としましては、今後も皆様からご支援とご助言をいただき、観光まちづくりの更なる推進によって、地域の活性化に繋げていきたいと考えておりますので、引き続きお願いできますと幸いです。

2点目としまして、3月7日（土）と8日（日）に愛知県植木センターで開催されます「第14回いなざわ梅まつり」のご案内です。先ほども話題になりました新型コロナウイルスの影響で今後どうなるか心配しているところですが、現段階では予定どおり開催の方向です。お手元に配布しました案内チラシに記載のとおり、今年度はサテライト会場である「メタウォーター下水道科学館あいち」と「矢合観音周辺」を含め多彩なイベントを用意し、会場間を無料シャトルバスで結ぶことで、更なる祭りの盛り上げに繋げていきたいと考えています。

最後に3点目としまして、本日の会議への出席に伴う謝礼につきましては、指定の口座へ振り込ませていただきますので、よろしく申し上げます。

以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

以上